



チャイルドが暮らす地域のご紹介

World Vision

この子を抱く、未来を抱く。

TZA-183537

チャイルド・スポンサーシップは、1人の子どもを対象にしたお金や物の提供ではありません。支援地域の人々が、子どもの健やかな成長のために必要な環境を整えていくことを支援するプログラムです。チャイルドが暮らす地域と、現地でワールド・ビジョンが実施している開発プログラムについてご紹介します。

国情報



タンザニア連合共和国

アフリカ大陸の東部に位置し、ケニア、ウガンダなど9カ国と国境を接しています。西はタンガニーカ湖、東はインド洋に面しており、インド洋上にはザンジバル島があります。首都のドドマは法律上の首都で、実際の中心都市はダルエスサラームです。タンザニア全土には約130の部族があり、イスラム教徒とキリスト教徒が40%ずつを占めています。公用語はスワヒリ語と英語です。



地域情報

ムゲラ地域開発プログラム (TZA-183537)

支援期間: 2007年～2023年*

*支援期間はプログラム準備期間を含みます。支援終了予定日や活動の目標は、予期しない突発事項やプログラムの進捗状況により、変更される場合があります。

商業都市ダルエスサラームから北西に470Km、車で約9時間のタンガ州キリンディ県ムゲラ郡でプログラムを実施しています。支援地域では、ングウ族、ジグア族、マサイ族などが暮らし、住民のほとんどが農業を営んでいます。しかし、伝統的な農法による農業の生産性は低く、十分な食料を得られない世帯が多数存在します。また、水の入手が困難で、特に乾期には3～4時間もかけて水汲みに行かなければならない住民もいます。汚れた飲料水が原因で下痢などの病気にかかる子どもが後を絶ちませんが、地域には医療施設が少なく、治療を受けるのも困難です。



地域の課題



水汲みは子どもたちにとって大きな負担になっています

\$ 生計向上

- 年間を通じて**十分な食料を得ることができない**世帯が多い

+ 保健

- **医療施設、スタッフ、医薬品が不足**
- **安全な水**を入手するのが困難
- マラリア、肺炎、下痢などの**感染症が多発**



支援地域の村の様子



生計向上

住民の多くがトウモロコシ、豆、バナナ、キャッサバなどを栽培していますが、伝統的な農法による収穫量は少なく、年間を通じて十分な食料を得ることのできない世帯が数多く存在します。

ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 品質の良い種子や農機具の提供
- 近代的な農業技術の研修
- マンゴー栽培や養蜂など、新しい収入源の導入支援



地域の人々が十分な収入と食料を得ることができるよう支援します



保健

支援地域には水源が少ないため、水の問題が深刻です。特に乾期には、水を求めて3~4時間も歩かなければならない住民もおり、水汲みを担う女性や子どもにとって大きな負担になっています。苦労して得た水も飲用に適さない場合が多く、水が原因で下痢などの病気が多発しています。医療施設が少ないため、病気になっても医療サービスを受けるのが困難です。

ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 水タンクの設置や診療所の建設
- 予防接種の重要性やマラリアの予防法に関する啓発活動
- 地域の村々で活動する村落保健員の訓練
- 妊婦を対象とした産前健診の重要性に関する啓発活動
- 栄養や子どもの食事に関する母親対象の研修



人々が必要な医療サービスを受け、健康に過ごすことができる地域を目指します



支援はチャイルドの生活を変える力となります

アトゥマニ君が暮らす村には、以前は診療所がありませんでした。このため、医療サービスを受けるためには3つの村を抜けて長距離を歩かなければなりません。出産も自宅で行うのが一般的で、出産の際に命を落とす女性や新生児も多かったと言います。

しかし、ワールド・ビジョンの支援でアトゥマニ君の村に診療所ができ、母親は末の弟を診療所で無事出産することができました。アトゥマニ君の学校には教科書や机が提供され、学習環境も良くなりました。

ワールド・ビジョンは、アトゥマニ君のような子どもや地域の人々が、必要な医療サービスを受けて健康に暮らせるように、支援活動を行っています。



支援された教科書と机を使って勉強するアトゥマニ君(中央)